



砂田向壱氏の講演

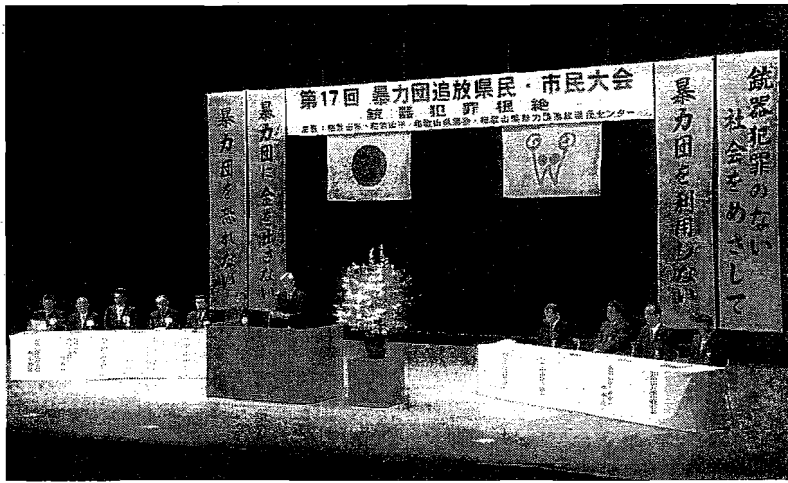


同 上

「暴力団追放3ない運動」宣言

県民・市民大会に800人 銃犯罪根絶訴える講演も

「恐れない、金を出さない、利用しない」



「暴力団追放3ない運動」を宣言するなどした大会—和歌山市で

和歌山 「第17回暴力団追放県民・市民大会」(県、和歌山市、県警など主催)が、和歌山市伝法橋南ノ丁の和歌山市民

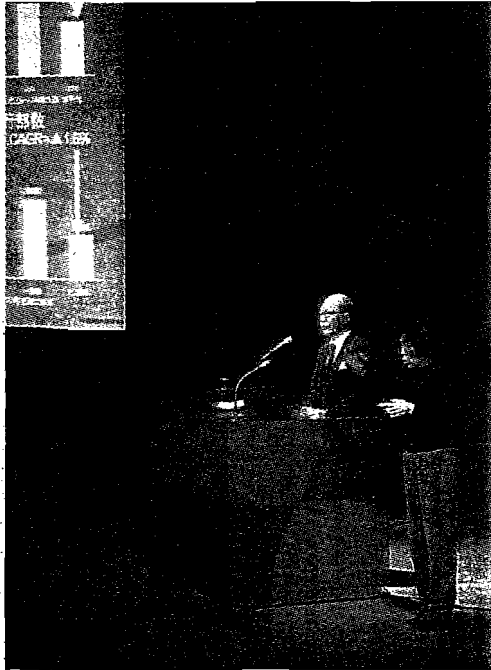
「第17回暴力団追放県民・市民大会」(県、和歌山市、県警など主催)が、和歌山市伝法橋南ノ丁の和歌山市民

砂田さんはアメリカ留学中だった息子(当時22歳)を強盗犯の銃撃で亡くした。アメリカでの銃を取り巻く状況、情報化の進む社会などについて説明し、「警察、教育、行政、銃砲販売店などが包括的に関心を寄せていかない限り、銃が犯罪に使われることは減っていかない」と訴えた。

【宮嶋梓帆】

銃犯罪の根絶目指し

暴追県民市民大会に800人



銃器犯罪の恐ろしさを訴える砂田代表

た。

写真を映し、銃器殺人の恐ろしさを訴え「銃器についての情報があればどんな小さなものでも寄せてほしい」と協力を呼びかけた。

同高校の多部美穂さん(16)は「撃たれた人の映像を見て銃を人に向けてることがどんなにひどいことかわかった。命の重さを考えてほしい」。同センターの永廣清美専務理事は「我々が先頭に立ち、暴力団をなくすための意識を住民に広げたい」と話していた。

を「社会を築こうとする組織ストッパ・ガン・キャラバン隊の砂田向と題し特別講演を行った

暴力団追放を自指し
「第17回暴力団追放県民・市民大会」銃器犯罪根絶」を開いた。
市立和歌山商業高校の1年の生徒や一般市民など約800人が来場。息子を銃で殺され、銃器犯罪根絶活動

「社会の変化と国民の要請」を代表を招き、

「社会の変化と国民の要請」を代表を招き、

銃で子亡くした 砂田さんが講演

暴力団追放大会

「暴力団追放県民・市民大会」(県、県警など主催)が20日、和歌山市伝法橋南ノ丁の市民会館であった。今年で17回目。関係者約400人と市立和歌山商業高校1年生約330人らが参加した。

大会では、永松健次・県警本部長が「県民、市民が暴力団を容認しない意識を高め、地域に根ざした排除活動を」と呼びかけた。紀の川市生活安全暴力団追放推進協議会の高田英亮会長が「恐れない、金を出さない、利用しない」の暴力団追放3ない運動の実践を訴える大会宣言を読み上げ



この日は、94年に米国留学中の長男を銃撃で亡くした。

「ストップ・ガン・キャラバン隊」の砂田向彦代表(62)が講演し写真。銃撃を受けた長男と病院で対面したつらい記憶を語り「『嫌銃意識』の徹底を」と訴えた。散弾銃の犠牲者の遺体や大けがを負った人の写真がスクリーンに映し出されると、高校生らは息をのみながら見入っていた。

読売新聞

県内版

●和歌山で暴力団追放県民・市民大会 「第17回暴力団追放県民・市民大会」が20日、和歌山市伝法橋南ノ丁の市民

会館で行われ、市立和歌山商業高校の生徒や市民ら約800人が参加した。

大会では仁坂知事が「暴力

団の勢力は減少しているが、さらなる努力をしよう」とあいさつ。永松健次・県警本部長が県内に暴力団が28団体

(10月末現在)、存在することを報告し、「暴力団を恐れない」「金を出さない」「利用しない」という大会宣言を

採択した。

また、アメリカ留学中の長男を銃犯罪で亡くした砂田向彦さん(福岡県)が、銃の根

絶を訴える講演を行い、「銃は人を殺す以外に用途はない」と述べた。市立和歌山商高の近藤綾乃さん(15)は「銃

犯罪の話はショックだった。同じことが起きないように思いました」と話した。